

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	申し送りや関わりの振り返りの際にも理念に触れ確認し合うよう努めて参りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議や地域の人たちにもたよりを配布したり、スーパーマーケットの掲示コーナーなどに貼らせていただくなど、広報範囲を広げていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	「災害対策」の備えとして近隣地域の方々との関係を深めて参りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護実践者研修の実習生の受け入れを積極的に行なっている。代表者と管理者は認知症グループホーム協会県支部で年間研修会立案や研修会実施に直接携わっている。また、地域の社協、民生委員の会で研修会、老人会の集まりで勉強会などを開催している。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行ないサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は改善に向けて具体案の検討や実践の努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席していただいたメンバーのみならず、まずはグループホームについての理解を深めていただき、現在ホームが取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行なっている。	○	入居者である認知症高齢者の行動障害など改善事例の提示を行なった。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が月2回の頻度で当グループホームを訪問され、入居者との語らい、相談、ケアの現場の見学を行なっている。年に1～2回鳴門市介護保険課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、当グループホームの優れた点や改善して欲しい点などが指摘される。これらを踏まえてさらなるサービス向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会ある毎に、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会の参加などを行なっている。	○	一度以前に、成年後見制度を活用するために支援したことがある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したりして、理解浸透の取組みを行なっている。また、職員全体が、身体的虐待、介護、世話の放棄・放任(ネグレクト)心理的虐待、性的虐待、経済的虐待が見過ごされないよう注意し、防止に努めている。	○	高齢者を人生の先輩として敬うという意味を堅持している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	個別のリハビリを受けていただいたり、通院援助など、できる限りの体制があることをお知らせし、実行している。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	介護相談員報告会では、鳴門市職員とともに質の向上に取り組んでいる。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	携帯電話やパソコン向けに画像を添付した電子メール活用の普及を進めて参りたい。また、面会時にもより気軽に話せる雰囲気を作っていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	今後、家族会では、職員は席を外して家族同士で話し合ってもらう時間を取り、皆さんの意見や苦情等を代表者から伝えてもらうようにしたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	連休が取りづらくリフレッシュ出来ないので、改善に向けて検討したい。「管理者の集い」で平成18年度は他事業所職員と交流しストレスを緩和していく機会を作った。平成19年度は介護職の集いもGH協会県支部で予定している。この取り組みは同業者の同じような悩みを聞き、解決法を聞くこと等によりストレス解消になっていると思われる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	入居者全員と、短時間でも毎日対話や語らいの時間を作るよう努めて参りたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	面会の少ないご家族と馴染みの関係を作るために面会回数を増やしていただけるような取り組みを考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご親族からの相談を受けた際には、ホームとして可能な限り柔軟な対応を行ない、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り、入居前には見学していただき、スタッフが自宅に出向いたり、無理なく安心した生活に移られるよう配慮している。また、入居後は、関わりの多かった家族の面会をお願いしたり、馴染みの物を持ってきていただき、ホームにも馴染みやすいよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。また、本人の思いや心の奥底にある苦しみ、不安、喜びなどを知るように努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合う関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人をいっしょに支えるためにご家族と同じような思いで支援していることをご家族に伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の言動や状態などをご家族にお知らせし、家族への思慕をお伝えしている。また、ご家族からの思いを日常的にご本人にお話し両者の思いが結びつくようかわっている。また、外出で家族と一緒に過ごすことや行事に家族を誘ったりしていっしょに過ごすなど、より良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用しても、今までの生活の延長線上であるよう知人や友人等に会いに行ったり、訪問してもらう。電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続する支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないように支援している。また、年長者として長年培った人と上手く付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力を発揮できるような支え合いを引き出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、利用者といっしょに遊びに行ったり、事業所の行事に来てもらったりしている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者を良く観察、対話し、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご親族の面会時に生活歴やなじみの暮らし方、生活環境を聞き、また、それを職員で共有し日々の介護に生かすよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活・心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制をしき、センター方式を生かしながら、ご本人らしく生活できるような介護計画を全職員の関わりの中で立案している。また、カンファレンスにはご家族様の参加の上、ご意見をいただきながら、より良いプランニングに努めている。当然、本人の要望も聞き重視している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わりの中で状態の変化や家族の新たなニーズを敏感に捉まえ、介護計画の見直しに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は業務開始前に、日々のご本人の食事、水分量、排泄など身体状況および言動の記録を確認し情報共有を徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、通院の送迎など必要な支援を行い、また、ドライブや遠出、見物、外食などの支援も行い、ご本人ご家族の満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署員来苑により、消防指導を受けている。また、保育所での運動会参加、大正琴、日本舞踊、カラオケグループ、オーディオン、法話などの訪問、運営推進会議での地元民生委員、自治会などの役員の参加など地域の人や場の力を借りた取り組みをしている。	○	もっと周辺施設への働きかけをしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の保育園の運動会に参加し、園児や保護者との交流を深めたり、地域のいも畑を提供していただき、いも掘りに出かけている。また、およそ月一回美容師さんに来苑していただき、希望者の調髪をしていただいている。ご本人が入居前に懇意にしている美容院への送迎を行うこともある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には法人内の地域包括支援センターや他地域包括支援センター職員の参加を得ており、これをきっかけに情報交換や意見交換を重ねるようになり、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に合わせた医療機関受診に応じている。また、ご家族の都合に合わせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活において些細なことでも本人が決める場面を作っておりまた、言葉がなくとも入居者個々の思いや意図を汲み取り、ご本人が自分の意志で物事を決められるよう支えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的で効率を考えた日課を排除し、利用者のペースを大切にし、買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己決定が難しい入居者には、好みの髪留めを使い整髪するなど個性を生かした支援をしている。また、外出や行事などのときは、普段と違うおしゃれができるよう、一緒に服を選ぶなどのお手伝いしている。	○ 入居者同士の関わり合いを喚起したい。(気の合う人どうしがお互いに整髪しあうなど)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物と一緒に行き、下ごしらえ、盛り付けなど調理全般を利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。また、職員は入居者と同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しい時間となるよう支援している。	○ 食事介助が必要な入居者にも食事を楽しんでいただけるような工夫をしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙習慣のある入居者はいない。おやつのは好みはそれぞれに違いがあり、従来からの嗜好に合わせたものをお出ししている。食材の買物に行ったときに、食べたいおやつがあったときには、購入してお出ししている。	○ コーヒー、紅茶などのなじみの嗜好品なども楽しめるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンや便意のサインを敏感に捉え、さりげなく、トイレ声かけ、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて入浴していただけるように毎日準備している。また、足の不自由な入居者には、苦痛を感じず入浴して頂くため、併設施設のリフト浴へお連れし、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動量を増やし、夜間に良く眠れるよう支援している。一人ひとりにとって自然なリズムが生まれるように、環境や生活の過ごし方、関わる側のあり方が本人のリズムを乱していないか確認するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや畑仕事、園芸、楽器演奏、カラオケなどの利用者の経験や役割、楽しみを発揮する場面を作っている。遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金を事業所が管理している方でも、買い物時にはお金をお渡しし、希望に応じた買物をしていただいている。支払いは混乱しないよう職員が声かけ見守りをし、できるだけご自分で支払うことができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望にそって日常的に、畑仕事、散歩、園芸、買い物など戸外に出かけている。また、季節を感じていただく為、積極的に外出行事を計画し実行している。	○	個々の馴染みの場所にも積極的にお連れできるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出を企画立案している。阿波踊り見物、うずしお見物、bigひなまつり、花見など折々の風物詩を楽しんでいただいている。	○	諸条件が調えれば、一泊旅行に出かけられるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知己者への電話の送受信介助を行ったり、遠方に住まわれていたり、時間がなく面会に来られないご家族とのつながりを大切にできるよう努めている。また、ご家族から本人へのFAXの取り次ぎを行ったりしている。	○	年賀状や暑中見舞い発信に取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間帯を特に定めておらず、ご家族や来苑者の都合の良い時間帯に来ていただけるように配慮している。また、ご本人と面会の方が気兼ねなく過ごせるよう居室にご案内したり、リビングの一角を使っただけよう心掛け、来苑者を自然な形で歓迎している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十二分に理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関および中間扉も施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。外に出られようとされる方には、それとなく同行し転倒に備えている。また、万が一の離設に備え、離設マニュアルを策定し対応できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、最大限見守りのできる環境に身を置きながら、業務を進めており、本人のプライバシーに配慮しながら自然な態度で全入居者の様子察知に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ごく一般的な家庭の姿を重視し、不必要に片付けてしまわないよう心がけ、生活感のない住環境にならないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒をはじめとして、調理中の切り傷や移動時の打撲など、受傷の大小に関係なく、ヒヤリハットも含め、速やかに事故報告書を作成し、原因と予防策の立案実施に取り組んでいる。また、月ごとの法人全体の事故検討会議に参加し、多面的に事故を分析し、より良い対策を見出すよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食嚥下状態により、米飯、キザミ食、ミキサー食、トロ入り汁などに食形態を変えている。また、食事や水分摂取量は毎日記録している。カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう法人内の管理栄養士により、定期的に専門的アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを策定している。職員と同意いただいた利用者はインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、嘔吐下痢の汚物に対応する訓練、消毒方法などの訓練を行っている。地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買物で調達しており、買い置きは行わないようにしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。調理器具は乾燥機で熱処理したり、塩素系の消毒剤で滅菌処理するなど衛生管理方法について取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の畑には花を植えたり、入り口には緑豊かな植栽を施している。また、屋外に出たときは小休止できるようベンチを置き、お茶を飲んだり自由に憩いの時間が取れるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を調べ、普通の家庭の姿からかけ離れないようにしながら、居心地の良さや活気ある生活ができるよう配慮している。共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおい、利用者の弾くオルガンの音など生活感や季節感を意識的に取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内には、リビング、廊下ベンチが設えられており、一人にも二人きりにもなれるような場所を備えてある。また、リビングには二人がけと三人がけのソファを置いてあり、気の合う人同士が語り合えるスペースを調べている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、個々人が使い慣れた家具やキーボードを持ち込まれていたり、家族やご自分の思い出のアルバム、ご本人が作られた創作折り紙が飾られている。また、据え付けのベッドや床頭台を個人の好みに合わせた配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との換気に努め、空気の上よみや臭気がこもらないよう毎朝30分、施設全体を換気している。また、トイレや玄関先には消臭剤を置き、悪臭が漂わないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しの高さ、物干しの高さ、洗面所の高さが利用者が作業しやすいように整えており、廊下、浴室、トイレの手すりも安全確保と自立への配慮の視点で生活環境を整えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招かないよう『便所』と大きく表示しており、居室を間違える方には居室入り口に氏名を表示し、ご本人の不安材料を取り除く配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花を育てたり、野菜を作ることが出来るよう畑となる場所を2箇所確保している。また玄関先にはベンチを設置したり、館内にはサンルームを備えており、思い思いの時間を過ごしていただけるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)